

俳句の部

堀口 みゆき

「文芸ふじさわ」の編集に携わってから、早や十五年の歳月が流れました。編集を引き継いだ頃には東日本大震災があり、不安のつるつるの中、俳句が心の支えになっていた方も少なくなかったと思います。「文芸ふじさわ」に投句される方々も様変わりしました。自分もいつの間にか高齢者となり、政治や経済を含め、世の中は急速に新しい時代へと変貌しつつあります。

昨今の俳句ブームの影響もあってか、今回は百四十四名のご応募がありました。分析してみますと、いろいろな偏りが見られます。個人的に作句している方の応募は少数にすぎず、多くの投句者は結社や俳句サークルに属し、配布された案内パンフレットによって情報を得た方々です。

俳壇全体に見られる現象として、特に若い層には、結社に属さず自由に句を作りたい、紙媒体ではなくウェブを使って句会を開いたり発表したりしたい、古い形に縛られたくない、という思いがあります。伝統を重んじる方から見れば受け入れがたいことかもしれませんが、どのような手段であっても、日本独自の文化が後世に残る

短歌の部

加藤 和彦
鮫 島 美和子

2025年も暮れようとしています。開催前には何かと議論を呼びました関西万博も、好評のうちに閉幕しました。政界史上初の女性総理の誕生、その他にも、熊による被害拡大・古古古米等々話題の尽きない年でありました。

そうした下での「文芸ふじさわ」第60集短歌の部、応募者の減少を少なからず懸念しておりましたが、どうやら59集同様の(24名↓25名) 応募者がありほっとしております。

内訳は59集から継続応募者16名、60集に新たに応募された方が9名、60集には応募されなかった方が8名、との状況でした。

又、60集に応募された方で、「文芸ふじさわ」に登録された三団体所属の方が13名、それ以外の会、あるいは個人の方が12名でした。

「文芸ふじさわ」のこのような状況を踏まえて、近頃の短歌界のありようをネットで調べてみました。すると現在ではZ世代に於いて、「まさに短歌ブーム」である、とのことでした。

(Z世代とは、現在12歳から28歳の若者、いわゆるデジタルネイティブ、つまり生まれながらにスマホやSNS

のであれば、それは進化と呼ぶべきではないでしょうか。先般、湘南日独協会からのご依頼を受け、俳句の国際化について講演させていただきました。なぜ文芸の中で、俳句が世界中の国々で作られるのかという話から始まりました。外国人は、作品を流れては無く、切り口をとりえる無駄のないシンブルさに惹かれるのかもしれない。海外詠には無季の句が多いのですが、四季に思われていた点では、日本が最も豊かな環境にあると思います。日本人独自の感性は、日本の自然がもたらすものとも言えるでしょう。芭蕉の有名な「古池」の句を見ても、蛙は一匹なのか、たくさんいたのか、「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」の蟬は一匹なのか、それとも多くいたのか、正岡子規が詠んだ法隆寺の鐘の音と西洋の鐘の音の違いなど、日本人の持つ侘び・寂びの精神性は独自のものがあります。

外国語で作られた俳句は、言語の違いにより五・七・五にはなりません。日本語に翻訳して初めて五・七・五になります。それは原作者の意思とはかけ離れたものになるのではないかとこの疑問も残ります。一番良いのは原作者の本意を理解することですが、翻訳者の感性も影響するため、このあたりが難しいところだと思えます。

いずれにしても、日本文化が国際的に海外へ浸透していくことは、たいへん喜ばしいことです。そこには、音楽や絵画に見られるような、国を超えた共通の感動や、ジャンルを超えた目に見えない共通の存在があるのかもしれない。

に慣れ親しんでいる世代のこと)

成長期であり悩み多き世代にあって、自らの思いを打ち明けたり、共感を得るための格好の手段であるようです。口語体の表現により意味がとりやすくなっていることが、ブームの鍵となっている、とこのです。

さて、それでは「文芸ふじさわ」を介して短歌を楽しむ我々は、いかなることになりましょうか。そうですネー・平凡な毎日を過ごす中で、歌を詠むことが時々メリハリになる

・短歌の会における、会員の皆さんとのやり取りで新たな発見があり脳が活性化する

等々、各自各様、それぞれに想いがあるものと思われる、

60集で終わることなく継続して楽しみ、応募されることを期待いたします。

編集委員より 応募者皆様へ、次の点について注意してくださいようお願い致します。

仮名遣い(新・旧)の欄に丸印をつけ、どちらかの仮名遣いに統一してください。

今回気になったのは、促音便「つ」。旧仮名の場合「つ」は大きく書きます。

例「笑った」↓「笑った」 「さっぱい」↓「いっぱい」

川柳の部

宮塚 肇

今年、四十七名の方から応募をいただきました。文芸ふじさわは、今年で六十集となり人間の年齢なら還暦というめでたい区切りの発刊となります。この機会に、川柳を中心にその発端を探ってみました。

第一集（一九六六年）に掲載された応募作品は、短歌と俳句のみでした。当時、俳句と短歌は、市の文芸団体として個別のグループ活動や大会が活発に行われていたようです。発刊の辞として教育長の若月芳夫氏は「文芸活動をする市民に交流の場の提供と市民の鑑賞に供する」と述べられ、そして、表紙の題字は、藤沢市長の金子小一郎氏の書で、市としての意気込みを感じさせます。

また、藤沢市俳句協会長の田中喜八郎氏は、発刊に寄せる一文の中で「他都市にはみられない行政当局による発表の場は待望久しい喜ばしいもので市民全体の喜ぶべきこと」と記述されています。

川柳の応募作品が初めて掲載されたのは第九集（一九七五年）です。十の課題について三句ずつ、十人余りの方からの応募作品が掲載されています。『白バイの三億円は今いずこ（晴風）』、『開発で少なくなった虫の声（美美）』、『かまきりもウーマンリブに脱帽し（二三子）』と当時を想い起させる作品があり、また今と変わらぬ物価高の文言も散見され、川柳ならではの時代を反映させる内容

に興味をそそられます。川柳の編集を担当された田上光村氏は、藤沢市の川柳の始まりは昭和二十三年頃、片瀬や鶴沼の海の家を使って始められたこと、ふじさわ川柳会が年に一回開催されていること、六会市民センター講座が開催されたことを記述されています。

文芸ふじさわも還暦を過ぎ、古希、喜寿、傘寿：と集を重ねていくことでしよう。今後、文芸としての川柳の魅力が市民一般に広く広めることが我々に課されているのを感じます。

五行歌の部

鈴木 春野

第60集へのご投稿、ありがとうございました。

五行歌は普段生活する中で全ての事象やそれらへの自分の想いをテーマに詠めますから、その時々々に気軽に書き留めて、日記代わりの生活の記録にもなります。自分の歌の記録を遡りますと「あの頃こんなことを考えていたのか」と、懐かしくその当時を思い出すという個人的な意義や楽しみにもなります。

また、この60集の五行歌作品の一つずつを読んでみますと「そうそう」と共感したり「へ〜面白い感じ方だわ」と新鮮に感じ味わうこともできますように、他の人の歌との出会いも良い刺激になります。

そういう機会が歌会です。五行歌の歌会では本当に自由に歌への感想や自分の意見を交わし合います。それが楽しく女性会員の多くが「色々な面白い事ややって来たけど、こんなに続いているのは五行歌だけ」と言います。時に歌作りは大変ですし、点が低い時もあるのに、なぜ歌会を楽しんでいるのでしょうか？

- ① どなたかしらが共感したり、褒めてくれる。
- ② 作者の思いが大事、と添削がなく個性が尊重される。
- ③ 自分の歌作りへのヒントや刺激を受ける。
- ④ 歌だけではなく、歌を通して様々な話が出て来て毎回何かしらを学べる。

等が考えられます。一回の歌会で数えきれないほど談笑し合いますから、誰もが「家にいたのではこんなに笑うことはない」とおっしゃいますし、歌会后、参加者皆が笑顔で帰路につきます。

年齢を重ねて、心身ともに健康であることが益々大切になって参ります。外出や人との交流はとても大事で、身嗜みを整えたりコメントの発言は適度な緊張にも繋がります、歌作りと共に脳を刺激していると思います。

コロナ禍で会員が集っての歌会が出来ず「紙上歌会」という形が続いた経験からも、皆が参集、対面しての通常歌会の楽しさ、有難さを実感しており、馴染んだ市民会館に暫く通えないのはとても残念ですが、会場を代えて楽しんで行きたいと思っております。

現代詩の部

山田 美智子

「文芸ふじさわ」第六十集を皆様のお手元にお届け出来る事に感謝申し上げます。また、還曆に値する歴史を紡がれてこられた事に、紙面を借りてお祝い申し上げます。先達の長谷川富貴様の文芸への深い造詣や、市民の皆様の方々の文芸を慈しみ育成して来られた賜であると思うと感慨深いです。

今集の作品からひもといて参りましょう。「カンナ」、鎌倉駅北の横須賀線の真っ赤なカンナは、映像にみる鮮やかさなのでしょう。カンナは句会や詩にも彩りを添えますね。茨城のりこさんの「根府川の海」に綴られたカンナもひと味あります。「ふゆのひ」は親子の温もりを「みどりのてぶくろ」に感じました。終連の二節が秀逸です。ゆっくり音読し、味わいましょう。「すいとろ」とは「四歳のぼくとママの会話から掬い上げ生まれた作品。『すいとろ』は、おもちゃも入る便利な物で、どこにでも持ち運び出来るそうですね。「ロマンティックでなくいい」、日々の暮らしに、お互いがどれほど大切な存在であるかを気づかせてくれる作品です。「誰も知らない」は、人は幸せの中にいる時、しあわせの有り難さに気づきにくいものです。突然の喪失感に見舞われた時、相手の存在がどれほど大切であったかに気づかされます。人生は立ち止まり、振り返り、今もこれからも、しっかりと生きて

随筆の部

市川 光 治

今回送付された随筆は、旅行記、過去の思い出、歴史に関する考察、感想文などに分類されました。

旅行記はその土地の風景が浮かび上がり、興味深く読みました。知らない土地のことを知るのには楽しいものです。自分の知識が増える喜びでしょうか。

過去の思い出については、楽しかったこと、苦しかったこと、後悔すること、など熱い思いが伝わってきて、面白く読ませてもらいました。

歴史に関するものは、書き手の知識や経験に基づいた考察が深く、論考として読ませてもらいました。過去の読書量の多さがしのばれ、読み手はその知識の一端を分けて貰えるわけです。

感想文は素直に感じたことを書かれていました。そこに皆様の個性を感じました。

全体的には、書き手の情熱の強さが文章に自然に表れているものや、逆に筆を抑えて内に秘めた思い入れの強さを感じさせるものがありました。どちらの方向で書くのかは、書き手の自由です。題材により自分で選択することになります。

題材が浮かんだらメモに書きとめておくのがいいかもしれません。書きとめた時には大したものとは思わなく

行く事ですね。「幻想世界」、作風が少し変わりましたが。朝の絵画的な景色が、遮断機の音で現実に戻される。大いにありますね。

「リズムと偏光板」は、四季折々の移ろいや人間の喜怒哀楽は、あつたほうが良いですね。争い事の多い世界に、平和の偏光板は欲しいものです。「正義の解体」、「解体」は壊す意味を示します。正義が壊れた社会の中では、私たちの生命の存続が危ぶまれます。時代と共に社会的倫理感が揺らぎ、心理的に不協和音が聞かれそうです。現代社会の過多情報やグローバル化した情報に流され易い今こそ、人として良識ある行動が大事です。「夜明け前」は、太陽が沈む空は暗くなり、太陽が昇る前の空は白みかけ、明るさを取り戻す。「朝」は重い闇からの解放ともいえ、希望の光ともいえます。「冴えた空」、万華鏡はとも不思議で魅力的な言葉のひとつです。光のあり方で色々変化します。私たちは、自然の恵みの中で、生かされている存在です。作者の感じる空の奥は、心の平静を保つ世界なのでしょう。「流し」は、作者の貴重な思い出といえる母親の姿が、家族の暮らしを支えるご自身に重ねられた遅い作品。

どれもすばらしい作品です。皆様、これからも書き続けて下さい。継続は力なり。次集でまたお会い致しましょう。

でも、時間をおいてメモ類を見返してみると新しい発見があるものです。漬物が重しの下で熟成するように、題材がこなれて成熟していくのです。

吉田兼好の昔から、徒然なるままに書きとめるのが随筆なのであり、身辺雑記ということなのですが、ただ書くのではなくおのずと取捨選択がなされて出来るものと思えます。その取捨選択に個性が現れます。その個人の選択したものが、読む者の心をとらえるのですから、個性が普遍的なものに昇華しているのだと思います。なんにせよ、まず書き始めればよいのです。

【俳句】

団体名	代表者名	会員数	集会日	場所
さちの会	高瀬俊次	8人	毎月第2木曜日	橘市民の家
香坊句会	柴山洋	13人	毎月第2土曜日	カフェ香坊
白南風句会	渡部喬	13人	毎月第3木曜日	藤沢市役所 市民利用会議室
さら例会	神谷章夫	15人	毎月第3土曜日	Fプレイス

【短歌】

団体名	代表者名	会員数	集会日	場所
新青虹藤沢短歌会	久保井収	12人	毎月第3日曜日	辻堂公民館 辻堂市民図書館
花舟短歌会	原けい子	30人	毎月第2・第4火曜日 毎月第2・第4水曜日	善行公民館 明治公民館
なぎさ短歌会	加藤和彦	11人	毎月第3火曜日	湘南なぎさ荘

★サークル紹介★

(2025年11月現在)

【俳句】

団体名	代表者名	会員数	集会日	場所
一葦湘南句会	相澤陽子	20人	毎月第1土曜日	藤沢市役所 市民利用会議室
一葦藤沢句会	中根美保	16人	毎月第2火曜日	藤沢市役所 市民利用会議室
くくだち句会	原山テイ子	13人	毎月第3木曜日	湘南台図書館
鷹辻堂俳句会	堀口みゆき	-	毎月第2/第3木曜日	吟行(第2木曜)/辻堂 市民図書館(第3木曜)
たけのこ会	永井かほる	13人	毎月第2木曜日	藤沢市役所 市民利用会議室
天為湘南俳句会	内藤繁	70人	毎月第3日曜日	藤沢市民会館他
波藤沢例会	山田貴世	35人	毎月第4水曜日	藤沢市役所 市民利用会議室
はこべ俳句会	加藤静子	12人	毎月第3木曜日	鶴沼公民館
冬すみれ会	鈴木絹子	8人	毎月第1日曜日	済美館
むかご会	齋藤まり江	17人	毎月第1・第3水曜日	済美館
無名の会	神谷章夫	15人	毎月第2日曜日	吟行
サンシャイン句会	堀口みゆき	-	毎月第1金曜日	藤沢市市民活動 推進センター
はまべ句会	堀口みゆき	-	毎月第4日曜日	辻堂市民図書館
みちくさ俳句会	大山賢太	10人	毎月第1土曜日	藤沢市市民活動 推進センター
かわせみ俳句会	大山賢太	10人	毎月第2水曜日	藤沢市市民活動 推進センター
かるがも俳句会	大山賢太	10人	毎月第4金曜日	ラポール城南
木犀ミモザ会	大平雅芳	15人	毎月第1土曜日	湘南台図書館

～ ご協賛ありがとうございます ～

文芸ふじさわは、市民文芸の活動を盛り上げるため、長年にわたり発行しております。

文芸ふじさわ第60集発行にあたり、市内の団体・法人の皆様、個人の皆様からご協賛を賜りました。

皆様からの温かいご支援に心よりお礼を申し上げますとともに、今後とも本事業へ変わらぬご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

団体・法人ご協賛ご芳名 (敬称略 五十音順)

有限会社 アート稲元
さら俳句会
合資会社 関水スポーツ
辻堂川柳会
有限会社 豊元書店
波俳句会

個人協賛ご芳名 (敬称略 五十音順)

青木敏行	小池貴瓊子	西野洋司
あや子	幸葉	ヒラサワタカシ
今井美恵子	塩崎麗子	廣崎龍哉
上松マリ	白石多美子	三浦節子
オウミタカリン	森童	山下巖
大澤清水	多美子	横田佳代子
加藤弘子	富安千鶴子	
神谷章夫	戸村忠子	他12名

【川柳】

団体名	代表者名	会員数	集会日	場所
六会川柳会	小野敬子	11人	毎月第2・第4火曜日	六会公民館
鶴沼川柳同好会	宮塚肇	7人	毎月第2・第4土曜日	鶴沼公民館
辻堂川柳会	大久保近下	11人	毎月第3土曜日	辻堂公民館
湘南台川柳会	熊田松雄	26人	毎月第4金曜日	湘南台公民館
生きがい川柳同好会	森本生雄	7人	隔月1回・不定期	生きがい就労センター
川柳こぶしの会	松下協一	11人	第3木曜日	こぶし荘

【五行歌】

団体名	代表者名	会員数	集会日	場所
藤沢日曜歌会	橋本圭子	21人	毎月第1日曜日	藤沢市民会館
藤沢火曜歌会	新井文子	12人	毎月第3火曜日	藤沢市民会館

【随筆】

団体名	代表者名	会員数	集会日	場所
てっせん	神部ゆかり	6人	毎月第2木曜日	明治公民館
文芸光風	渡辺準	10人	毎月第1・第3火曜日	湘南大庭図書館
はまゆう	篠原貴子	5人	不定期	長後公民館

第60集編集委員

俳句 堀口 みゆき
渡部 有紀子
短歌 加藤 和彦
鮫島 美和子
川柳 宮塚 肇
五行歌 鈴木 春野
現代詩 山田 美智子
隨筆 市川 光治

文芸ふじさわ 第60集

発行 藤沢市

(公財) 藤沢市みらい創造財団

問合せ (公財) 藤沢市みらい創造財団

芸術文化事業課

藤沢市鶴沼東8-1(藤沢市民会館内)

TEL 0466-28-1135

FAX 0466-25-1525

編集 文芸ふじさわ編集委員会

発行日 2026年(令和8年)2月28日

印刷所 (有)アート稲元

「無断転載を禁じます」

Imagination & Creation Design



グラフィックデザイン
イラストレーション
キャラクターデザイン
サイン広告(看板)
セールスプロモーション
映像制作
WEBデザイン



お気軽にご相談ください

〒251-0002 神奈川県藤沢市大鋸1-9-3
Phone: **0466-25-4019** (代表)
E-mail: share@art-inamoto.co.jp (代表)

SEKIMIZU SPORTS

大会の盾、トロフィー及び記念品の
ご注文を承っております！

営業時間 10:30am ~ 8:00pm

月曜定休

住所：藤沢市鶴沼石上 1-3-1

TEL 0466-26-3355

FAX 0466-26-3530

事務用品・書籍・教科書・紙製品

(有) 豊元書店

〒251-0052

藤沢市藤沢 1056 (外商部)

藤沢店 TEL 0466-26-2311

外商部 TEL 0466-26-5111

FAX 0466-27-1550

E-mail info@e-toyomoto.com

URL <http://www.e-toyomoto.com>

波 俳 句 会

個性の開花

主宰 山田貴世



